

4月6日 説教要旨

アブラハムの受けた試練は、人間が経験しうる最大の試練であったと思われます。自分の愛する独り子を、自分の手で殺さなければならない、このようなことが決してあってよいはずはありません。神様がイサクの代わりの雄羊を用意してくださったというこの話の結末を聞く時、私たちの心はホッとし、一件落着…と思います。しかし、この決してあってよいはずがないことを、神は私たちのためにしてくださったのでした。ご自分の独り子であるイエス・キリストを十字架にかけ、私たちの罪のための献げ物としてくださいました。イサクが自分を燃やすはずの薪を背負ったように、キリストはご自分のかかられる十字架を背負い、モリヤの山ではなくゴルゴタの丘の上でその命をささげてくださいました。

今年度の小石川白山教会の主題目標は「共に礼拝をささげる」としました。共に礼拝をささげるということはそれぞれに犠牲を払うことであると思います。ある人にとっては貴重な時間を、ある人にとっては貴重な体力を、ある人にとっては貴重なお金を、まるでアブラハムがイサクをささげるような思いでささげる場合もあることと思います。しかし、もし神がそのささげものを私たちにささげるように命じておられるなら、神はアブラハムに雄羊を備えてくださったように、私たちにも必要を必ず備えてくださいます。たとえそれが私たちの思う時や方法でなかったとしても、神様の時と方法によって、必要は必ず備えられると今朝の聖書の箇所は語っています。

新しい年度も、主の山の備えを信じて、それぞれのささげものを携えて、共に、この白山の丘に集ってまいりたいと思います。